

大学史研究通信

第45号、2006年2月15日(水)

大学史研究会

第45号の内容：会員ニュース・第28回研究セミナー報告・2005年度総会議事録・2005年度会計報告・2005年度年会費未納の方へ・研究会のご案内・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

異動のあった会員(遡及分を含む)

田中 正弘 会員(所属・住所変更：第43号にて告知済み)

新所属：広島大学高等教育研究開発センター

土井 貴子 会員(所属・住所変更：第43号にて告知済み)

新所属：瀬戸内短期大学養護教育学科

野坂 尊子 会員(所属変更：第43号にて告知済み・住所変更)

新所属：立教大学大学教育開発・支援センター

<会員の異動等の情報の掲載法について>

通信第43号より、新入会員の方についてはお名前、所属と研究テーマ、会員の異動についてはお知らせのあった会員の方のお名前および異動のあった項目のみ(よって具体的な異動情報は出さない)の公開にとどめておりました。本件に関して2005年12月に開催された総会にて会員の皆様に諮りましたところ、会員の異動に関して所属については公開するということになりました。つきましては、今後は新入会員の方については第43号以降の方針に変更なし、会員の異動についてはお名前と所属変更の場合は新所属先、その他の項目については異動のあった項目のみを公開させていただきます。ご理解のほどよろしく願いいたします。

<会員名簿に関する調査について>

会員情報の通信上での公開について一定の制限を加えることにより、会員相互の連絡に齟齬が生じることも想定されます。つきましては、長らく発行されていない会員名簿の発行について、2005年12月の総会にて提案され、今年度中に名簿に関する調査を行う方向で進んでおります。つきましては、名簿の記載項目について会員の皆様に調査を実施する予定があることをお知らせしておきます。もちろん昨今の社会情勢に鑑みて、名簿に掲載する情報について十分な配慮が必要なことは言うまでもありません。最終的にどのような形で発行するのかという問題については情報調査の段階までに事務局の方で検討し、会員の皆様にご提案いたしますが、そのような計画があることをお含み置きくだされば幸いです。本件についてご意見等ございましたら、事務局(代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までお寄せください。

大学史研究会 第28回研究セミナー報告

2005年12月17日(土)・18日(日) 大学史研究会第28回研究セミナーが慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、36名の参加者を得て開催されました。

まず一日目午後には「自校の大学史をつくり、つたえる」のテーマのもと課題研究がおこなわれました。課題研究では、司会者による趣旨説明のあと、国立大学における自校史教育実施状況調査の結果報告を中心とする「大学における自校(史)教育の現状について」(秋田大学 大川一毅会員)、英語版一橋大学史の編集に関連して「日本における商科大学の形成過程 - 東京商科大学を中心に - 」(一橋大学 西澤保氏)、九州大学における自校史教育と大学文書館の関わりに関して「『自校史』教育と大学文書館 - 九州大学の場合 - 」(九州大学 折田悦郎会員)、慶應義塾大学における福澤研究センターの研究活動と塾史講義に関して「慶應義塾における近代日本研究と大学史講義」(慶應義塾大学 小室正紀会員[機関])の4本のご報告を頂きました。その後全体討議がおこなわれ、各報告で取り扱われた個別の事例に関する問題ならびに全体テーマと関わって自校史の編纂と自校史教育との関係性の問題などが議論されました。課題研究の後には総会ならびに懇親会が開かれました。

二日目には自由研究として二会員に以下のテーマでご発表いただきました。(1)沖塩有希子会員(青山学院大学)「イギリスの19世紀後半から20世紀初頭における女性の高等教育の状況 - ケンブリッジの女性カレッジの生活文化を中心に - 」、(2)井上美香子会員(九州大学)「戦後大学改革期における教養教育論の形成についての一考察 - 大学人の論考に着目して - 」。

以上の内容をもって、本年度のセミナーも盛会のうちに無事終了することができました。ご発表・ご参加いただいた会員の皆様には心より御礼申し上げます。また、本セミナーの開催にあたっては、米山光儀会員ほか慶應義塾大学関係の諸会員に大変お世話になりました。この場をお借りして御礼を述べさせていただきます。

なお次回、第29回の研究セミナーは、2006年11月25日(土)、26日(日)に近畿大学本部キャンパス(東大阪市)で開催予定です。来年度も多くの会員の皆様にご発表、ご参加いただけることを期待しております。

(事務局セミナー担当 福石賢一)

2005年度 大学史研究会総会 議事録

2005年12月17日(土)

於：慶應義塾大学

議題

1. 事務局・編集委員会からの報告
2. 第29回(2006年)セミナー開催校について
3. 2005年度会計報告について
4. 2006年度予算案について
5. 会員の個人情報の公開について
6. その他

議事内容

1. 事務局・編集委員会からの報告

事務局より、住所不明の会員が増えているので、住所や所属に変更があった場合、事務局に連絡をしてほしい旨の依頼があった。

事務局の編集担当より、編集委員会のメンバー変更について以下の通り報告があっ

た。別府編集委員長より、一部委員の交代を行いたいとの提案があった。新メンバーは、谷脇由季子委員・児玉善仁委員が残留し、古屋野素材会員、赤羽良一会員、樽松かほる会員の構成とし、委員長は新メンバーの互選としたいとの提案があり、承認された。

紀要投稿論文の締切り設定について議論が行われた。現在は特に時期を定めず、いつでも応募を受け付ける体制をとっているが、出版時期、採否確定時期を明確にしておくべきではないかとの意見が出された。これについて、事務局の編集担当より、紀要発行は11月と3月としており一応の目安は定めている、年2回発行を目標としているが、十分な数の投稿が集まらず、また内容的に十分でないものが多いため、結果として年2回発行が実現していないとの説明がなされた。これについて、締切りのないことが余計集まりにくい原因となっているのではないかと、事前に執筆タイトルだけでも出してもらってはどうかといった意見が出され、次期編集委員会で検討を依頼することとした。

紀要に誤植があった場合、訂正文を掲載してほしい旨の依頼があった。

編集委員会が定期的にかかっているかどうかについて質問がなされた。それに関して、事務局の編集担当より、編集委員間の連絡が大変であるため、次期委員会は関東在住メンバーで固め、もっと定期的に編集会議を開きたいとの意向が現委員会内にあることが示された。これに関連して、編集委員の交代について、現行の編集委員会内で話し合った後、総会で提案し、承認されるという手続きである旨の確認がなされた。

2. 第29回(2006年)セミナー開催校について

事務局より、近畿大学を会場に行いたい旨の提案がなされ、承認された。近畿大学の荒木康彦会員より、2006年11月25・26日の2日間で開催したい旨の説明があった。

3. 2005年度会計報告について

事務局の会計担当より、資料に基づき、報告が行われた。

収入と支出の表示について、「年会費・入会金」、「大学史研究第21号 編集・印刷・発送費」の項目はそれぞれ内訳を明示してはどうかとの意見が出された。これに対して、個別表示は煩雑となるので、現状のままにした方がよいとの意見が出された。また、「年会費・入会金」が端数となっていることについて、事務局が送金料を負担している旨の説明がなされ、これについて、個人負担としてもよいのではないかと意見が出され、次回より送料送金者負担用の振替用紙を送ることが承認された。会計監査について、現在は以前事務局で会計業務を担当していた会員に依頼しているが、そのような体制を続けることは、会計監査の客観性、特定会員への負担などの点から再考の必要があるため、会計監査についてのルール作り、適任者の推薦などを行ってほしい旨の依頼が事務局の会計担当よりなされた。これに関して、当面、監査は2年任期とし、承認システムについては改めて来年度の総会で提案したい旨、事務局より発言があった。また、来年度監査の選出については事務局に一任された。年会費の納入率が低下しており、2005年度の会費納入者数は全会員の約65%にあたるという説明が会計担当よりなされた。これをうけて、年会費の納入率の低さを懸念する意見が出された。

支出の「国際セミナー報告書翻訳謝金」の項目について議論が行われた。2001年度セミナーの英文報告書が広島大学高等教育研究開発センターの刊行物として出版された旨、事務局より案内があったが、刊行物が出版されたばかりで、形態・内容の確認が十分できていないので、事務局側で確認を行った上で改めて報告を行うこと

となった。

4．2006年度予算案について

事務局の会計担当より、資料に基づき、報告が行われ、承認された。

5．会員の個人情報の公開について

本研究会は、個人情報保護法の定める個人情報取扱事業者には当たらない。しかし、新入会員や転居会員の個人情報を「通信」に掲載しており、また名簿発行の話も以前から出ており、対応を考慮しておく必要がある。事務局より、暫定措置として「通信」上では氏名と所属変更のみについて通知することとしたい旨の提案があり、認められた。また、名簿発行に関して、賛否両論の意見が交わされたが、会員個人がどの個人情報を公開してよいのかを選択できるという条件を確保した上で発行することが認められた。また、そのための作業として、今年度中を目処に名簿作成のための調査票を会員に送付することが事務局より提案された。

6．その他

以上に加えて、議事の進行の中で以下のような意見が出された。

今回セミナーの課題研究の設定について、テーマ設定の前提となった文献との関係をどのように捉えているのかについて、企画者に意見を求める発言（代理）があった。事務局のセミナー担当より、本人に直接回答したい旨の発言があった。

特別会員という身分を設け、本研究会の創設メンバーにこの身分を与え、会費を徴収しないこととしてはどうかとの意見が出された。総会の場ですぐに決められることではないが、考慮してほしい旨の提案がなされた。

総会に出席できない会員が総会において意見を提出することについて議論がなされた。その中で、手続きを明確にし、その手続きを踏めば意見提出を認めてよいのではないかととの意見が出され、事務局が事前に通知し、意見を受け付けるなどの措置を検討することとなった。この点に関連し、事務局用のメールアドレスを作成しており、ホームページ上から連絡・問合せが可能となった旨、事務局より案内があった。

大学史研究会 2005 年度会計報告

大学史研究会 2005 年度会計ならびに 2006 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

2005 年度の収支報告

【収入】

2004 年度会計からの繰越金は 2,692,466 円でした。

2005 年度年会費は 100 名の会員より納入があり（全会員の約 65%）、年会費・入会金の収入額は 597,040 円でした。これは 2004 年度納入額に比べ約 6 万円の減少となり、納入率にしてみれば約 5 ポイント低下したことになります。年会費の納入は、年々滞り気味になっており、今後の研究会の運営に及ぼす影響が懸念されます。本研究会収入の大半は年会費によっております。研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入にご理解ご協力をお願い申し上げます。つきましては、年会費未納の方には、本

通信に会費納入依頼通知と払込票を改めて同封させていただきました。詳しくは後述の「2005年度年会費未納の方へ～納入のお願い～」や同封の会費納入依頼通知をご覧のうえ、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

年会費額は一般会員会費 5,000 円、院生等会員 3,000 円ですが、会計報告においては、その納入総額が「端数」となっています。これは、「郵便振替払込」で年会費納入をしていただいた場合は「払込料金加入者負担」としており、納入年会費が大学史研究会口座に振り込まれる際、会員各位の入金額から払込料金経費が差し引かれることによります。この点に関して、総会では、払込料金の経費負担を支出枠の諸雑費として別途計上するようにご意見を賜りましたが、現状においては、年会費と払込料金を区分する作業は大変煩雑となります。他方、銀行振込の場合にはそもそも手数料をご本人の負担とさせていただきます。こうした手数料の扱いの違いや年会費収入の減少といった事情から、総会の席では郵便振替の場合も同様に払込料金を本人負担とする提案がなされ、これが了承されました。つきましては、2006年度年会費より、会員各位には、払込料金本人負担用の払込票を送付させていただくことをご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、「大学史研究」(紀要)の販売については、編集委員会のご尽力によって 97,600 円を計上しました。これは、2004年度販売額(34,710 円)に比べて 6 万円以上の売り上げ増です。

2005年度の総収入額は 3,387,200 円、前年度繰越金を除いた実収入額は 694,734 円でした。

【支出】

「大学史研究第 21 号」発行経費として 352,265 円を支出しました。この内訳は、制作 100,000 円、印刷(200 部) 200,000 円、発送 35,490 円、消費税 16,775 円となっております。

印刷費については 16,620 円の支出となります。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡印刷物、年会費納入依頼通知の印刷等の経費ですが、2005年度は事務局所在地の変更につき、新たに封筒の印刷も行いましたので、この経費が加算されています。

通信・郵送費の支出 64,140 円は、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキ、その他宅配便等の経費です。

その他、消耗品・諸雑費として 6,664 円、第 27 回セミナー開催経費 28,642 円、また、謝金として 20,000 円を支出しました。「大学史研究通信」の発送など、一度に大量の事務作業がある時はアルバイトを依頼しております。

なお、2005年度については、「国際セミナー報告書翻訳謝金」として、268,800 円という特別な支出がありました。これは 2001 年 12 月に広島大学で開催された第 24 回大学史研究セミナーの成果を英文報告書として出版することに関連した経費です。日本語で提出された論文について英文への翻訳をネイティブの方にお願ひし、その謝金を大学史研究会で負担することが前事務局で了承されておりました。報告書は 2005 年 11 月に、"The Idea of a University in Historical Perspective: Germany, Britain, USA, and Japan"と題して、広島大学高等教育研究開発センターから刊行されました。刊行の経緯や内容の詳細等につきましては、改めて次号の通信で報告される予定です。

次年度繰越は 2,630,069 円、来年度繰越金を除く総支出は 757,131 円でした。

「2005 年度会計報告」に明らかとおり、本年度の会計については、進藤修一会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。御多忙のなか、監査業務を賜りました進藤会員に心より御礼申し上げます。また、総会では、次年度監査の選出について事務局に一任されましたので、引き続き、進藤会員に監査業務をお願いすることが事務局内で決定され、進藤会員にもご了承いただきましたことを併せてご報告いたします。

2006 年度予算案について

大学史研究会では、次年度の予算案について、まず事務局が基本案を作成し、これを総会に提示し、そこでの審議を経て最終決定をいたします。例年と同様、2006 年度予算もこの手順にしたがって基本案が作成され、総会審議を経て予算案が決定しましたので以下にご報告いたします。

【収入案】

収入案は例年にしたがって、計上いたしました。

収入は年会費と紀要売り上げがすべてです。なかでも、本研究会の運営経費は年会費納入に大きく依存しております。2006 年度においては、本年度より約 53,000 円増の 650,000 円を収入予定額として設定しました。繰り返しとなりますが、2006 年度も会員各位のご理解ご協力をお願いする次第です。なお、現時点で 2005 年度会費未納の方にはこのたび当該年度の年会費納入依頼通知・払込票を同封いたしました。2006 年度会費の納入につきましては、4 月以降に納入依頼通知・払込票を発送いたします。

紀要売り上げは本年並みの収入を想定しました。紀要はおかげをもちまして編集委員会の営業努力を賜り、会計をうるおしていただくようになりました。今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

総収入額は 3,380,159 円、繰越金を除く総収入額は 750,090 円としました。

【支出案】

支出案は例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、今回は特に昨年度の実績に基づいて算出いたしました。

2006 年度においては「大学史研究」を二回（第 22 号、第 23 号）発行する予定になっております。この経費は、例年 300,000 円として設定しておりましたが、昨年、一昨年の実績を踏まえて、発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を各号 350,000 円、計 700,000 円として計上いたしました。

大学史研究会ホームページにつきましては、研究会の重要な情報発信機能として、今後一層の充実と活用を図る予定です。この経費として 50,000 円を含めております。

編集委員会、及び事務局の会合費（交通旅費を含む）については、2005 年度は使用する機会はありませんでしたが、かつての総会で承認された項目ですので、それぞれ 50,000 円を計上いたしました。研究会の円滑な運営を目指して、定期的に会合を開けるように努力したいと思っております。

その他諸経費は、ほぼ例年通りの額を計上しました。

2006 年度から次年度への繰越金は 2,385,159 円、繰越金をのぞく総支出予算案は、

995,000 円を予定しています。

上記 2006 年度予算案は、2005 年 12 月 17 日（土）に、慶応義塾大学にて開催された大学史研究会総会で審議・検討され、承認されました。総会の席でも申し上げましたが、ご注目いただきたいのは、前年度繰越金を除く総収入 750,090 円と次年度繰越金を除く総支出 995,000 円の差です。予算案通りに執行された場合には、244,910 円の赤字が出ることになります。このたびは大学史研究会の財政状態をご理解いただくために、実績に基づいた予算案を提示いたしましたが、このままでは早晚繰越金が減少する恐れが出てくるかと思われます。

もちろん、「大学史研究会の発展のため」、あるいは「会員サービスのため」に必要な経費支出の要請があった場合は、事務局でこれを検討し、それが妥当性をもつと判断しうるかぎり、新たな支出も認められております。予算の有効活用にむけて、今後とも会員各位からのご提案、ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なことも併せてご検討いただければ幸いに存じます。

以上の「2005 年度会計報告」及び「2006 年度予算案」につきまして、ご質問、ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願いいたします。

（事務局会計担当 杉谷祐美子）

2005 年度年会費未納の方へ ～納入のお願い～

本研究通信に掲載されております会計報告のとおり、大学史研究会の実収入は会員各位からの年会費に大きくよっております。2005 年度、全会員数に対する年会費納入率は約 65% であり、未納会員も少なからぬ状況です。そこで、2005 年度の年会費納入依頼通知は昨春に発送させていただきましたが、2006 年 2 月 8 日現在未納の方につきましては、会費納入依頼通知と払込票を再送させていただくこととしました。研究会の発展と円滑な運営のため、なにとぞ会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。本年度会費納入の詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。

年会費は 5,000 円です。大学院等在学、あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には「院生・学生会費（年会費 3,000 円）」制度が適用されます。過年度分年会費未納の会員各位には、同封書類に、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計をご連絡しております。年会費 3 ヶ年度分以上の滞納会員には、研究会継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、紀要「大学史研究」等の発送を停止することになっております。該当会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますので、ご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

年会費納入払込先

郵便振替口座	大学史研究会	口座番号	00120-3-47583
または			
銀行口座	大学史研究会	三井住友銀行	池袋東口支店（店番 671） 普通預金（口座番号 3456109）

（事務局会計担当 杉谷祐美子）

大学史研究会 2005年度 会計報告

(自2004年11月27日～至2005年12月16日)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥2,692,466	「大学史研究第21号」編集・印刷・発送費	¥352,255
年会費・入会金	¥597,040	印刷費	¥16,620
「大学史研究」売上金	¥97,600	通信・郵送費	¥64,140
利息	¥94	消耗品・諸雑費(文具・振込み手数料等)	¥6,664
		第27回セミナー開催経費	¥28,642
		謝金(通信発送業務補助)	¥20,000
		国際セミナー報告書謝金	¥268,800
		次年度繰越金	¥2,630,069
計	¥3,387,200	計	¥3,387,200

前年度繰越金を除く総収入 金 694,734円

次年度繰越金を除く総支出 金 757,131円

上記収支差し引き 金 -62,397円

上記のとおり、報告いたします。(事務局 会計担当 杉谷祐美子)



上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等はすべて妥当かつ正確に処理されていることを認めましたので報告いたします。

(会計監査)

進藤 修一



大学史研究会 2006 年度 予算案

(自 2005 年 12 月 17 日～至 2006 年 総会開催前日)

収入

支出

科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥2,630,069	「大学史研究第 22 号」編集・印刷・発送費	¥350,000
年会費・入会金	¥650,000	「大学史研究第 23 号」編集・印刷・発送費	¥350,000
「大学史研究」売上金	¥100,000	ホームページ管理費	¥50,000
利息	¥90	編集委員会会合費・旅費	¥50,000
		事務局会合経費・旅費	¥50,000
		印刷費	¥30,000
		通信費	¥75,000
		消耗品・雑雑費	¥10,000
		謝金(アルバイト代)	¥30,000
		次年度繰越金	¥2,385,159
計	¥3,380,159	計	¥3,380,159

前年度繰越金を除く総収入 金 750,090 円

次年度繰越金を除く総支出 金 995,000 円

上記のとおり、ご提案いたします。(大学史研究会 事務局)

研究会のご案内

厳しい寒さが続きますが、皆様方にはますますご清祥のことと存じます。

さて、この度、文部科学省科研費補助金(代表者 中村勝美 佐賀短期大学助教授)による招聘で来日されるマーク・カートイス博士(『オックスフォード英国人名事典』編集委員)をお迎えし、下記の要領にて研究会を開催することになりました。年度末の慌ただしい時期ですが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

日時 2006 年 3 月 8 日(水) 10 時～12 時

場所 広島大学大学院教育学研究科 A517(A 棟 5 階)第三資料室

テーマ 近代イギリスの大学におけるリベラル・エデュケーション
- 学位試験制度、チュートリアル・システムとの関連において -
報告者 マーク・カートイス博士(オックスフォード大学『新英国人名事典』編集
委員)
司会 安原義仁(広島大学大学院教育学研究科教授)
中村勝美(佐賀短期大学助教授)

カートイス博士は近代イギリス史を専門とされていますが、大学史とくに 19 世紀オックスフォード大学史に造詣が深く、あらゆる観点から当時の大学の実態究明に取り組んでおられます。この時期のオックスフォード大学の歴史に関しては「生き字引」と呼ばれている方です。

その仕事的一端および仕事ぶりはかの『オックスフォード大学史』全 8 巻のうちの 19 世紀を取り扱った第 6 巻および第 7 巻に明らかなです。いずれの巻もカートイス博士とブロック博士二人の編集になるものです(Brock, M.G. and Curthoys, M.C.(ed.), *The History of the University of Oxford Vol. VI Nineteenth-Century of Oxford, Part I*, Oxford, 1997. および Brock, M.G. and Curthoys, M.C.(ed.), *The History of the University of Oxford Vol. VII Nineteenth-Century of Oxford, Part II*, Oxford, 2000.)。

カートイス博士はまた、このたび全面改訂され新たな装いのもとに刊行された『オックスフォード英国人名事典』の編纂事業においても編集委員(research editor)として活躍されました。

本研究会では、「近代イギリスの大学におけるリベラル・エデュケーション - 学位試験制度、チュートリアル・システムとの関連において - 」と題してお話しいただきます。報告はオックスフォード大学を中心に行われますが、ケンブリッジや他の近代大学にも言及される予定です。

「リベラル・エデュケーション」、「学位試験制度」、「チュートリアル・システム」などは言葉・概念としては日本の高等教育界に流布しています。しかし、イギリスの大学の理念や制度・慣行はわが国のそれとはずいぶん異なり、それらの実態については実は理解しづらいところが多々あります。このたびの研究会は「生き字引」から直接話を聞いて疑義をただすまたとない機会です。ご出席下さいますようご案内申し上げます。出欠の予定を 2 月 20 日(月)までにお知らせいただければありがたく存じます。

なお、上記テーマに関するカートイス博士の論文のコピーが入用な方はご連絡下さい。

広島大学大学院教育学研究科教育学講座(西洋教育史) 安原義仁
連絡先 Tel. (0824)24-6737(直通) 安原義仁
E-mail: yyasuhar@hiroshima-u.ac.jp
E-mail: onaka@saga-jc.ac.jp 中村勝美

追伸

本研究会前日の 3 月 7 日(火)午後 3 時 - 5 時には広島大学高等教育研究開発センター公開研究会において、カートイス博士による講演「『オックスフォード英国人名事典』の編纂に携わって」が行われます。こちらの方にもご参加いただければ幸いに存じます。この公開研究会の詳細についてはホームページ (<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>) を参照ください。

事務局からのお知らせ

一部会員への『大学史研究』第21号の不着について

本会の紀要『大学史研究』の第21号が一部会員の方々に対して不着となっております。会員の皆様にご迷惑とご不便をお掛けしましたこととお詫びいたします。第21号がお手元に届いておられない会員の方は事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡下さい。情報の確認が取れ次第、発送させていただきます。すでにご連絡をいただいた会員の方にも同様の手続きとさせていただきます。何卒ご了承下さい。

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の福留までご一報頂ければ幸いです。

退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 後藤正明 会員

原稿募集

『大学史研究通信』第46号は2006年4月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の福留までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）または吉村研究室宛にお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

一昨年のセミナー懇親会で、(悪い?)予感が的中して、事務局員に任命されました。その数日後、新たな職場に赴任したことも重なって、局員としてたいした仕事もしていなかった中、昨年12月のセミナーで1年ぶりに会った仲間の顔を見て、遅ればせながらようやく局員としての自覚が芽生えてきました。はじめて編集を担当した今回の『通信』は、セミナーと総会の報告が中心となりました。セミナー課題研究のテーマは、「自校の大学史をつくり、つたえる」。1年前にはじめて大学の教壇に立ち、大学教育をいかに論じるかについて苦闘しはじめた我が身にとって、非常にタイムリーかつ示唆的な内容でした。

(福留 東土 記)

『大学史研究通信』第45号の編集は事務局・福留東土が担当いたしました。

連絡先 〒186-8601 国立市中2-1
一橋大学 大学教育研究開発センター
TEL: 042-580-8995 FAX: 042-580-8997
E-mail: h.fuku@srv.cc.hit-u.ac.jp

『大学史研究通信』第46号は、2006年4月30日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒635 8530 奈良県大和高田市東中127
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室 大学史研究会
TEL: 0745 52 1279 E-mail: yosimura@narabunka.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員(五十音順)

岡田 大士 (東京工業大学)	杉谷 祐美子 (青山学院大学)
田中 正弘 (広島大学)	福石 賢一 (九州女子大学)
福留 東土 (一橋大学)	吉野 剛弘 (東京電機大学)
吉村 日出東 (明治大学)	